

茅野

茅野市は、

市非核平和事業の一環で毎年、市内の中学生を対象に実施している非核平和作文コンクールの表彰式を市役所で開き、最優秀賞に選ばれた4中学校の各2人、計8人に今井敦市長が表彰状を手渡した。受賞者は8月5～7日の「広島平和の旅」に派遣され平和記念式典参列のほか、原爆ドームや原爆資料館を見学したり、被爆者の話を聞いたりする。

市では5、6月に各学校に出向いてDVD鑑賞やパネル展示(市役所でも)による平和学習を実施。2年生は原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学び、平和への思いを作文に書いた。

受賞した生徒は「広島ではしっかりと見聞して、たくさんの人に伝えたい」今の生活

原爆の恐ろしさ伝えたい

非核平和作文コンク最優秀賞8人「広島平和の旅」へ



非核平和作文コンクールで最優秀賞を受賞し広島に派遣される生徒たち

のありがたさや甘えを自覚する旅にしたい「被爆され、生き抜いてきた人の気持ちを考える旅にしたい」などと抱負を発表した。

今井市長は「戦争は難しい課題だが、こういった積み重ねを大切にして、起こさないよう努力するすべを知る人になってもらいたい」と、山田利幸教育長は「書いた作品を取って10、20、30年後の自分へのプレゼントにしてほしい。広島の人々の平和に寄せる思いを肌で感じてきて、市の代表としての行動で表して」と願った。

最優秀賞受賞者は次の皆さん。

原慧蓮、植田華音(以上、東部中) 鵜飼菜里、片桐優珠(以上、長峰中) 小林真理恵、上條日向(以上、永明中) 島田茜慈、守屋真一郎(以上、北部中)

の両日、市役所議会議棟で置きあんどんの組み立て作業を行った。10人が参加し、計37基を制作。祭を前に気運を高めた。

置きあんどんは、市内の保育園児や、中学、高校の美術部員がイラストを手掛けた和紙と木製のフレームで作る。和紙の絵柄は着物や金魚、縁日などさまざま。内部で電球を発光させて、夜の通りを彩る。制作したあんどんは、市民祭の前日まで市役所ロビーで展示する。

野明委員長(49)は「子どもたちが頑張って描いてくれたあんどんを設置してイベントをより一層盛り上げたい」と話していた。

